



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1931, 16(4): 317-320

ISSUE DATE:

1931-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183955>

RIGHT:

れる。八木博君は大阪東區平野町二、廿五に住んでゐられる  
篤學の人は刺を通じてこの抜刷を所望されたならば快く分與  
してくれられることと思ふ。(藤田)

## 雜 報

### ○丹波龜岡の西方を震央とする地震 「海と空」第

一一卷第七號(七月)所載、棚橋嘉市氏の「五月末より六月初  
めに至る京都、龜岡盆地西方の小地震」と題する記事を摘記  
すると次の如くである。本年五月末から六月初めに亘り京都  
附近には次の地震が観測され又は感ぜられた。

- 一、五月二十九日一〇時四〇分頃 南桑田郡西別院村 微震
- 二、五月三十一日一時五五分二秒(震央發震時計算値)京  
都弱震、家屋かなり動搖す。京阪神地方有感、大阪微震
- 神戸微震、南桑田郡本梅(ホンメ)村は強震で時計止まる
- 三、六月一日一三時三七分頃 北桑田郡宮島村微震。
- 四、六月四日一八時七分三二秒(震央發震時計算値)京都弱  
震、家屋かなり動搖す。附近有感。
- 五、六月六日一四時二〇分五三秒(同上) 京都弱震、家屋  
かなり動搖し戸障子鳴る。京阪神地方有感。大阪微震、  
神戸は町にて感じた人あり。二と同じく本梅村は強震、  
時計止まる。
- 六、六月七日八時二五分頃、乙訓郡向日町 微震。

斯く十日の間に六回の有感地震が小區域に續發したことは  
京阪地方では稀な現象で、其の内二、四、五の三回の地震は  
京都大阪神戸宮津豊岡洲本等の各測候所で驗測され、述者は  
其等の記象紙を用ひて結果を表にして示して居る。獨り本梅  
村で強震が報ぜられたことに一致して初期微動の繼續時間か  
ら求めた震央は三回とも本梅村の邊にある。又震度の分布は  
西北西に長い形を示してゐる。震源の深さは十秒等初期微動  
繼續時間圓の短半径を以てする方法に依ると十五軒内外とな  
り、震央距離、初期微動繼續時間、大森系数を用ひて計算す  
ると五月三十一日は二一軒、六月四日は六軒、六月六日  
のは三軒となる。此の地震は鄉村斷層の延長線上かとも思は  
れる地點に發生して居る事や、昨年十月十七日石川縣大聖寺  
附近の小破壊地震以來所謂淀川地震帶より多少北西に寄つた  
地帶上に次に掲げる様な稍顯著な地震や小區域地震が連發し  
てゐる事は注意に値する。この地帶上の地震と云ふのは次の  
ものである。

- A、昭和五年一〇月一七日 大聖寺附近 顯著地震
- B、同 一二月六日 淡路島北西 稍顯著地震
- C、昭和六年三月二一日 四國那賀川上流 小區域地震
- D、同 五月三日 琵琶湖北東 小區域地震
- E、同 五月三十一日 龜岡西方 小區域地震
- 六月六日 ADEBを連ねた一線は地帶の縫合線で淀川地震帶の西邊を  
限るものかと思はれる。又過去十箇年間に起つた此の附近の

地震の震央を地圖にプロットして見るとA D E B C點の邊りの地震發現回数は他の部分に比して少なかつたのを示してゐる。

因に云ふ、京都附近には其の後も弱震が續發し、最近では八月二十日及び同三十一日にも弱震があつた。

### 朝鮮咸鏡南道端川郡のマグネサイト鑛床

朝鮮

鮮鐵業會々報百五號に依ると最近端川郡に於て地質調査所員によりマグネサイト(菱苦土鑛)の大鑛床が発見されたといふ場所は端川郡北斗日面陽川里の大華陽洞から小華陽洞に亘つてゐ、咸津山間の新福場の北方約二里にある。鑛床は摩天嶺系の白雲岩中にあつて北東から南西に走り長さ四千米弱、幅五百米から百五十米に及び、中央で玄武岩流に被はれ露出部は北部のものの延長千五百米、南部のものも亦延長千五百米ある、埋藏量少くとも二億噸に達する。分析の結果苦土四四%三あり周邊の白雲岩は平均二二%の苦土を含有する。滿洲大石橋附近の鑛床よりも大きいと稱されてゐる。現時ではマグネサイトを金屬マグネシウムの原料には用ひてゐない様であるが、獨逸のエレクトロンとか米國のドウメタルだとかの如き航空機、自動車等の輕くて強いことを要するマグネシウム合金の需要が盛になつて來た際であるから、かゝる大鑛床の發見はマグネサイトをマグネシウム精製の原料とする工業を有利にする研究を促すことと思はれる。

### ○ギリシヤ人の米食増進

ギリシヤは狭い山國であ

つて、最近小亞細亞から百餘萬の民が歸つてきたので、食物が不足する、ギリシヤの穀物生産額は一九三〇年に約我七千七百二十一萬圓見當しか出來なかつたが、同年の穀物の輸入額は我八千七百九十萬圓に達したことによつて、その形勢がわかる、狭い國に人口が多いことは、他人事ではない、小さいギリシヤが年々内地消費量の半以上を外國の輸入にまつといふことは、蓋し非常な民人の負擔であらう。

そこで近頃米食が増加した、ギリシヤ人は早くから米に對して嗜好が進んでゐたが、小亞細亞からの避難民は特に米を愛用する、米の愛用といふことは東洋的である、歐洲ではさうした國は珍らしい、そこで近頃は年に約二萬四千噸約四百八十萬圓を輸入する、英領印度、埃及、フランス、獨逸、アメリカ、伊太利、オランダ等から米が入る、中には勿論仲繼貿易をやる國、獨逸の如きもあるけれども、其他は米が多少とも自國又は其領土に出来る。

歐米諸國では米は主として工業用に用ひられるけれども、ギリシヤに限つて大部分は食用であつて、品質の良い米を消費する。まだ軍隊の常食にはなつてゐないけれども、漸次採用せられる傾向がある、米を食う國民は、平和を愛すると思ふから、一寸この事を併せて記しておく。

日本とギリシヤとの直接貿易は一九三〇年總輸入額の僅か二厘位しかに過ぎない、まだ慣れないために圓滑な取引が出来てゐないのである。けれども日本から魚類の鐵詰がよくう

れて内地の食料品店で、日本品をいらない所はないといふことである、しかしある日本人が一九二九年蟹の鑑詰を投資して歸つたものがあつたので、其のために急に二ドラクマだけ相場が下つた、其他にも同様な投資をやる日本人があつて、後日の患をなすことが多い、本邦輸出商人の統制といふことは、是非共必要であると思はれる。

## ○中國の鷄鴨毛の生産

中華民國の羽毛の生産は極めて豊富で、其用途は主として蒲團類クッション、枕其他にして需要頗る廣く、英米獨に輸出さるゝ高は年々に増加し、一九二八年二百九十六萬海關兩になつた、日本の濃尾平野の養鷄地も、これに習つて羽毛の生産を考へるがよい。

中華の羽毛の集散市場は蕪湖附近が中心で上海がその市場である、南支那では九龍が取引地となつてゐる、その種類は鴨毛、鷄毛、鶩毛である、野鴨毛と家鴨毛の區別もある、長江流域蕪湖附近は野鴨毛の本場で品質がよい、南支那のは家鴨毛である、時々白羊毛を混入したり、白砂水をかけてゐたりする、長毛が少い程良いのである、濕毛を買取つてから、これを簸風にあて、風力で大小を撰別し品位を四級に分ち、布袋にいれて重量を約一斤とし、之を約二日間ソーダ水中に浸し、然る後釜中にて煮沸して殺菌する、ついでソーダ水を除去るために、清水にて充分に洗濯し、日光にて乾燥せしめ、最後に包裝搬出するのである、日本人は漢口あたりで、フトンをつかつてかへるが、それは羽毛を白布に包み、ミシンがけ

がしてあるが、布に穴があくと、そこから羽毛が飛んで出てしまふから、支那人獨特の工夫があるといふてゐる、白布につゝんだ大蒲團を更らに綴子などで外をつゝむのが常法である。民國にある上海や九江や漢口の旅館では大抵この羽毛のふとんをきせる。

## ○支那種油桐の我邦に於ける栽培

さきに本誌上

で支那江南の三年油桐といふものの有利なことをしるしたことがあつたが、最近の報告によれば既に我國にも右の油桐が移されて良結果を擧げてゐるといふことである。即ち歙山縣有田郡岩倉村では明治三十四年に縣人農學士吉田榮次郎氏から、同村今井嘉氏にこの桐の有望なことをつけて、果實一個を送付したのに始まる、今井氏はその實の中から種子二個を出して畑にまき、やがて山に移したところ、いかにも三年目に結實したからこれを同地の人々に分かつた、同氏は今村内山林中一アール、畑地三アール、合計一五アールの油桐林を持ち、樹齡二十六年に達し、成長極めてよい、又林間に稚樹が發生した、この一五アールから種子産額年に五四〇リツトルそこで昨年と一昨年の種子から七五四リツトルを擇らせたところ油が一四四リツトル、油粕三〇〇匁とれた、今井氏の談によると一アール七十五乃至九十本うへて三年目から結實し四十年位は樹力がおとろへないといふ見込である。

從來の内地桐は普通三個の種子があり、雌雄異株であるがこの三年桐は四個又は五個の種子をもち其の形も大きい、福

井縣では内地桐をつくつてゐるが、雌雄異株だから一所に二本乃至四本をうへ、開花の時に雄花の木をとりさるといふ不便がある、それとも秋の結實をまち種子をあつめて處理する六年目から實が出来十一一年目からよく出るが、種子一石の價は、大正八年二十圓にもなつたが、今日は八圓四十錢、種子六石七斗から、一石の桐油粕百貫がしぼれる、油一石の價は一時百五十五圓もしたが、目下五十圓内外である、支那の種子によると丁度その二倍半の結實があるのであるから、農家の副業によい。九州四國中國の暖帶多雨の山に適するであらう、米國ではフロリダ州で既に大規模の支那油桐栽培が實行され五十萬株にも達し一エーカー百二十五弗の收穫をあげてゐるといふことである、日本もこの經驗に見て將來この桐の増殖をはかり、桐油の輸入禁遏のみではなく、進んで海外に輸出するやうにしたいものではある。

## 質疑應答

問 北米セクオイヤ國立公園

答 この公園の所在地はカリフォルニア州ヨセミチの國立公園よりは、百哩餘南であつて、同じくシエラネヴダ山脈中の勝景であり、桑港からロスアンゼルスへの海岸本線でなく、ヤッキン平野の農村を通る山手の鐵道にのり、日本人の多いソレスノ市又はそのつぎの驛から五十哩ばかり、山に登つたところにある公園である。

其名の示めす通りビッグツリーの森林を保存するための公園である。セクオイヤといふ杉に似た巨樹は、シエラネバタの西麓海拔五千呎から八千呎の間に於て特に繁茂し、峡谷が之を中斷するけれども、ずつと、傾斜のこの高度に横に連續してゐると考へてよい樹種である。故に高舉ホイットニー（高度一萬五千呎）の中腹にこの國立公園が選定されてゐる、その區域は野生草花の優秀なる品種が殆ど聚まつて天然の植物園である、又野羊、熊、鹿等の自然動物園である。セクオイヤは往々レッドウッドと混同されるがレッドウッドは、前者よりも小さく海岸山脈に茂るものであるから間違つてはならぬ、この公園でのジャイアント森といはるゝ部分に、ゼネラルシャーマンと呼ぶ世界第一の巨樹がある。

高さ二七三・九呎、周一〇二・七呎、直徑三七・三呎、最長の枝、一三〇・〇呎、最長枝の直徑七・三呎、總重量六、一六七噸。

樹齡は凡そ六千年である、若木の樹皮は紫色で、老木の皮は肉桂色をなし、一、二呎の厚さがある。根は割合に短いが根元が重く倒れない。生活力極めて旺盛で、雷で頭を割られても斧で負傷をうけても決して死なない。猶不思議に害虫といふものがない、さればこそ世界第一の巨樹となつて、猶其生活をとぐめないのである、枯れた木でも中々に強靱であつて、地球上太陽の下に生をうくるものゝうち最も長命のものであるといつてもよい、この公園には一萬二千本のこの大木があつて、それが保護されてゐるのである。